

医療安全とは

医療安全とは、病院での“もしも”を防ぐための工夫です。安心して医療を受けられるように、医療スタッフ・患者さんがみんなで支える仕組みです。例えば、患者間違い、薬の間違いなど、命に関わることを未然に防ぐために、医療スタッフが確認を重ね、ルールを守っています。



医療現場での具体例

1.患者間違い防止

医療スタッフが患者さんを別の人と間違えないように確認します。

- ★名前と生年月日の確認：処置や検査の前に、患者さんに「お名前と生年月日を教えてください」と確認します。
- ★リストバンドの使用：入院中の患者さんには、名前やIDが書かれたリストバンドをつけてもらいます。フルネームで名乗っていただき、リストバンドでバーコード認証します。
- ★受付票の使用：外来患者さんには、受付番号でお呼びし、フルネームで名乗っていただき、受付票と確認しています。
- ★声かけのルール：「〇〇さんですね？」ではなく、「お名前を教えてください」と患者さんご自身に名乗っていただきます。
- ★ダブルチェック：誤投薬、誤診、誤処置などを防ぎ、患者さんの安全を確保するために、様々な場面において、2人で確認します。

2.薬の取り違え防止

患者さんに薬を渡す前に、名前・生年月日・薬の種類をダブルチェックで確認しています。

⇒ 薬を間違えると命に関わることもあります。何度も確認するのは“慎重すぎる”のではなく、“命を守るため”です。

3.転倒・転落の予防

病院でも転んでけがをすることがあります。環境を整えて“転ばない工夫”、“転んでも大きなケガにならない工夫”をしています。

4.医師からの説明(インフォームド・コンセント(説明と同意))

“わからないまま治療される”ことがないように、治療の内容・リスク・代替案を丁寧に説明し、患者さんが納得し同意をいただいてから治療を開始します。

5.患者さんからの声を活かす

患者さんの気づきが、医療安全につながることもあります。遠慮せずに声をかけてください。

